
部活恋

星真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

部活恋

【Nコード】

N2996N

【作者名】

星真

【あらすじ】

不器用にしか気持ちを伝えられない 内川健介…

その気持ちに全く気付かない 桜井佳奈…

部活内恋愛を描いた

二人の切なくも甘いラブストーリー

出逢い

俺の名前は 内川健介 13歳

俺の中学では、絶対になにかの部活に入らなきゃいけない

「サボりたいから…」

そんな理由で、俺は美術部に入部した。

もちろん、男子が一人もない美術部に
わざわざ好んで参加するわけがない。

俺は毎日部活には行かず
家に帰っていた。

ある日、帰り際に声をかけられた

「3組の内川健介くん…？」

見たがない子だ

「うん、そうだけど…」

「あ、私健介君くんと同じ美術部で1組の桜井佳奈です…
健介君…部活これる時来てくれると嬉しいなあ」

「えっ… 俺？ でも忙しいし…」

嘘をついた。ホントは忙しくなんかないのに…

「えっ、じゃあ忙しくない時は絶対きてねっ！ それじゃあ…!!」
そう言うと、彼女は満面の笑みを浮かべてどこかへ走り去った。

「えっ、ちょまつ…」

俺の声は彼女には届いてなかった…

誰だ…？あの子…

どうやら同学年の1組の子らしい…

しかも同じ美術部…

すっげえ可愛い！

和風美人という言葉がぴったりの彼女…

めっちゃくちゃ可愛い…

俺は、人生で初めて彼女に

一目ぼれをした…

その日は、桜井佳奈の事で頭が一杯だった…

次の日、俺は美術室に行ってみる事にした。

部室に入るのは、結構勇気がいる。

「よしっ!!」

勇気を出して、俺は美術室に入った。

油絵の具のなんともいえない匂いがする…

（居た…）

美術室の奥の方で

桜井佳奈は俺と同じクラスの
高橋有希と話していた。

（高橋も、美術部だったんだ…）

高橋とは、小学校からの女友達で
今も仲がいい。

そんなことを思いながら、カバンを置いたその時
声がした。

「あっ！来てくれたんだっ！！　ありがとう！」

満面の笑みで、桜井佳奈にそう言われた

嬉しかった

女子と話すのは、結構慣れてるのに
桜井佳奈と話す時は凄い緊張する。

心の中では、桜井佳奈　ってフルネで呼んでるけど
実際はなんて呼べばいいんだああああっ!?

佳奈…?　いやいや、馴れ馴れしい…

佳奈ちゃん…?　…引かれたら嫌だしなあ…

そうだ、まあ今は桜井さんでいいか!!

そんな事を考えてるうちに

桜井佳奈がこっちに来る…

(どうした!?!　どうした…!?!?)

「この前ちゃんと、自己紹介してなかったんで…
私、1年1組の桜井佳奈っています！よろしくねっ！」

ご丁寧にあざーっす
っていうか可愛い…

なんだろ、心臓が 心臓が飛び出しそう。
ドキドキする…

顔も見られない

でも、ちゃんと挨拶はしないと。。。

「おお！ よろしくなあっ！！！
俺は内川健介！3組！！」

うわああああああああああああ

なんで俺、上から視線なんだよっ!!

親友

「顔赤いよ…!?!?も…もしかして…」

(き…気付かれたっ…!?!?まさか、俺が桜井佳奈を好きな事がバレたあああ!?!?)

「熱っ!?!?だ、大丈夫!?!?どうしょ…」

良かったあ…笑 気付かれてなかった…

「あ、大丈夫だよ！ありがとう！！」
俺はそう答えた。

「あつ、良かったあ！！」

心配そうな顔から一転
満面の笑みを浮かべてそう言われた…

可愛い…
しかも優しい…

完璧じゃないかあああああ！！！！

知らぬ間に俺は、ずっと彼女の顔を見つめていた

「はっはっはっ 健介、あんた佳奈の事好きでしょっ!?!」

高橋が、いきなり俺の耳元で囁いてきた。

バ・・・バレタあああああああああああああ!!

「お、おまえっ!! 本人の前でそんなことっ」

「本人ならいないわよ、さっき職員室に用があるって出てった」

いつの間にか目の前から、桜井佳奈はいなくなっていた。

「佳奈は鈍感だから気付いてないと思うけど
あんた分かり安すぎるわよ！」

やっぱり有希は鋭い…

「う、うるせーよ。」

「あ、否定しないってことは、やっぱりそうなんだっ！」

有希だけには素直に話せる…

「そ、そうだよ…」

俺はそう言った。

「んじゃっ 私協力してあげる！」

「いらんことすんじゃねーよ！笑」

現実

有希には 俺が桜井佳奈が好きって事がばれた

有希の事は信用してる

有希は言いふらしたり、
直接本人に行ったりは絶対しない。

だから、有希には何でも素直に話せる

最高の女のダチだ。

そんな事を思いながら俺は部屋にいた。

特にすることもないから、有希が絵を書いているのを見ていた。

（うまいなあ…　なんていうか、絵が暖かい…）

有希の絵を見ているときに、桜井佳奈が職員室から戻ってきた。

「あっ！　佳奈！　いいところに帰ってきた！！」

「いいところ！？　なに！？！？」

いいところ…！？　どういふことだ有希！？

「私と、佳奈と、そして健介で恋バナしようよ！笑」

こ、こ、こ、こいばなああああああああああ！？

ちよちよちよ W 何言ってるんだよ！

あ、でも、俺は佳奈の事が好きだっ！ってアピールできるチャンス
かつ！？笑

それより！ 佳奈の恋バナが気になる！……！！……！！……！！

けど、「恋バナやりたいやりたい！」なんて到底言えないし
桜井佳奈が、恋バナ好きそうじゃないし……

「面白そうっ！」

佳奈はそう答えた

[illegible]

「べ、別に、いいけど！」

俺は答えた

有希は自分の恋愛に対しては冷めている

「男なんかいらん！笑」

小学校の時から冷めている

そこが有希のいいところでもある！笑

有希の話がだんだん話が進み、俺の番になった！

「健介、好きな人いんの！？」

おーーーーーーーーーーーーーーーーーいW
有希W
お前何言ってんだよW
W
W
W
W
W
W

「健介君好きな人いるの!?!」
佳奈にも質問された。

はい! あなたです!

なんて言えるわけねーだろW
W
W
W
W
W

でも、ちょっとくらいなら・・・

「俺が好きな人は、優しくて、可愛くて…和風美人？」

「え！？ 誰！？！？」

佳奈は到底自分の事だとは思っていない表情だ（笑）

これ以上言うと、心臓がヤバイから
俺の番は強制的に終わらせた！笑

「んじゃあ、次は桜井さん！」

俺は佳奈にそうやって話題を振った

「あたし、佳奈の好きな人聞きたい！笑」

「えええええっ（笑）」

いや、俺が一番聞きたい
ってか、好きな人はいるのか！？

できればいいでいて欲しい…

「桜井さんは好きな人いるの？」

勇気を出して聞いた

「二人とも、凄い信用してる、だから誰にも言わないでね」

誰にも言わないでね…？
ってことはいる！？

「私が好きなのは
3組の
桐山翔太」

それ以降の会話は、俺の耳には

入ってこなかった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2996n/>

部活恋

2010年12月11日02時15分発行